

神奈川の道德

日本道德教育学会神奈川支部 「道德フォーラム2017」開催 テーマ「主体的・対話的で深い学び」を目指した道德科の授業展開と評価

平成29年4月22日(土) 國學院大學たまプラーザキャンパスにおいて、5回目になる「日本道德教育学会神奈川支部」道德フォーラムが開催されました。

第Ⅰ部の平成29年度神奈川支部総会の開会挨拶では、田沼支部長から道德の状況として、“道德科”になることで、“主体的・対話的な深い学び”が全面に出されてくること、各教科同様に「どのような力をつけていくのか」が道德科でも大切であろう、との話がありました。

第Ⅱ部 実践研究発表では、まず富岡理事から「支部研究テーマの設定趣旨」として、道德科における改善の視点として、①主体的な学びの視点②対話的な学びの視点③深い学びの視点という3点を究明していきたいという趣旨が説明され、それを受け小中学校から1本ずつ実践報告が行われました。



小学校からは、内島史章先生(川崎市立浅田小学校)が、道德の推進校として教職員が一丸となり校内改革を進めた成果についての報告がありました。研究1年には、全体計画や年間指導計画の見直し、別葉の作成、授業グッズ作りなどへの取り組み、2年目には、話し合い活動を充実させるためにハンドサインやペア・グループ活動、ホワイトボード活用などの工夫を取り入れたことが報告されました。成果として、子どもたちの話し合い活動が充実しお互いの良さを褒め合う姿勢が生まれたこと、課題としては、まだまだねらいに沿

った発問の構成や問い返しには難しさがあることが挙げられました。

中学校からは、若林尚子先生(埼玉県川口市立榛松中学校)問題解決的な取り組みの実践報告がありました。道德科におけるアクティブ・ラーニングとは、「目に見える活動性だけでなく、頭が働き、心が動く授業」であり、それが質の高い深い学びの実現につながるための考えを実現するために、ベン図や相関図、マインドマップなどによる思考ツールの活用、板書の工夫、トゥールミンモデルを使用し論理的に話し合う、めあてを具体的な言葉で示す、などの工夫した実践の報告がされました。



記念講演には、永田繁雄先生(東京学芸大学教授、前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)をお迎えし、来年度から始まる「特別な教科道德」についてのお話を伺いました。道德性を養うとは、資質・能力であり、道德的価値について自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることで育まれる道德的な判断力によりつけられる資質・能力の様相であると考えられる。道德科では、授業の全ての時間に教科書を使用するのではなく、4分の3は教科書以外の

ものを使い、教材を広げて行くことも必要である。道德科における評価は、質的に評価することである。それと同時に、授業の中では、子どもたちが主体的に課題を見つけ追求していけるような展開を増やして欲しい。また、多面的思考とは認め合い、価値認識すること「あなたならどうする」。多角的思考とはみがきあい生き方を広げていくことと考えていきたい。さらには、発問を柔軟に発想するための、「共感的」な発問、「分析的」な発問、「投影的」な発問、「批判的」な発問の4区分と、多面的な思考・物語的な思考・科学的な思考・多角的な思考の4つの思考例についてもご説明頂きました。



(詳しい内容につきましては神奈川支部ホームページをご覧ください。 <http://www.doutokukanagawa.com/>)